

新桂沢ダムモニタリング部会 第3回部会 議事概要

開催日時	令和7年3月5日（水） 14：50～16：30
開催場所	アスティ45 12階 1206会議室
出席者	池田委員、岩崎委員、大原委員、岡村委員、加納委員、玉田委員、中井委員、 ○松井委員、眞山委員 計9名 (○：部会長、敬称略、五十音順)
1. 規約の改定（案） ・新桂沢ダムの供用開始に伴う、岩見沢河川事務所への管理移管、並びに池田委員の役職の変更による規約の改定を新桂沢ダムモニタリング部会として了承する。 2. 議題 (1) 議題1 幾春別川総合開発事業の実施状況 ・主なご意見なし。 (2) 議題2 モニタリング計画の概要 ・主なご意見なし。 (3) 議題3 モニタリング調査結果（令和7年1月時点） ・湛水前後の植生の変化を把握するため、調査ベルト内の樹高、樹種、個体数などの定量的データも含めてとりまとめる必要がある。 ・移植については、その移植先が持つキャパシティを超えてしまうようなことにならないよう、エコアップ等の新しく創出した環境や新たに成立した環境に移植を行う取組等、保全対策の効果の確認も視野に入れて、これまでの調査結果を踏まえ、ある程度コンセンサスを持って統一的に進めていくことが重要である。 ・11.9m の嵩上げで水位変動域も広がるので、水位変動域の土壌が露出しているような環境を好む種の生息状況や外来種の侵入に留意していただきたい。 ・新たなダム湖が出来たことで視点場も変化するため、視点場の見直しを行いながら、景観形成ハンドブックに基づいた共通認識を継続していくことが、良好なダム景観形成が持続する上で重要である。 (4) 議題4 次年度以降のモニタリング調査計画（案） ・貯水位が上がると周辺の地下水位も必ず変化する。地下水位によって植生が変化すれば、そこに生息する動物にも影響するため、ダム管理のための地下水観測孔の計測結果を活用することで、植生変化等の解析を可能な範囲で検討してほしい。 ・モニタリング期間が終了するまでに、今後のフォローアップ移行後を念頭に置いた議論をしていくことが重要である。	